



国民春闘共闘

第24号

2022年4月19日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館

☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

第2次最賃デー

厚労省要請、記者会見、街頭宣伝

最賃近くで働く当事者が訴え

国民春闘共闘、全労連は4月15日、最低賃金の全国一律制度の実現と時間額1500円への引き上げを求める第2次最賃デーとして、厚労省・中央最低賃金審議会（中賃）へ最賃版「VOICE!」と目安全協宛での署名（第2次分168団体・640人）の提出、最賃近くで働く当事者の記者会見を実施しました。夕方からは小雨が降るなか、有楽町・イトシア前で宣伝行動を実施し50人が参加しました。

第3次最賃デーは5.11中央行動のなかで国会請願署名提出、第4次最賃デーは6月24日に地方からの参加も重視して省庁要請・国会要請・記者会見などに取り組む計画です。

最低賃金近くで働く当事者が記者会見

厚労省内でおこなった記者会見では、最低賃金近くで働く当事者が、生活や働く現場の実態を語り最低賃金の引き上げを強く求めました。マスコミ7社が取材し、報道はまだ確認されていませんが、最低賃金をめぐって労働者の実態や、労働組合・経営団体の動向に注目していることがうかがえました。

記者会見には黒澤幸一事務局長とともに、最低賃金近くで働く組合員二人が臨みました。人としての尊厳を保てないほど厳しい生活実態、この現状を変えたいという力強い訴えが胸を打ちました。以下、訴えの概要を紹介します。



成長期の子どもたちにどうやって食べさせれば

生協労連・ユーコープ労組 霜野悦子さん

私は生協でフルタイムで働いています。今は単組専従となり手取り額は増えましたが、昨年までは生協の宅配センターで営業をしていました。その時の手取りは15万円前後でした。

私は母子家庭で2人の子どもを育てています。現在は専門学校生と高校生になりました。15万円では家賃・光熱費・通信費・教育費・交通費などでほとんど消え、成長期の子ども達にどうやって食べさせていこうか、と毎月頭をかかえています。お米だけはとぎれないようにして、おかずは安いものをスーパーで探して食べさせる生活です。家族で旅行や外食などに行けるはずもありませんし、貯金などありません。少しでも余裕のある生活がしたいです。

私がいる職場は神奈川、静岡、山梨3県で同じ仕事をしていても最低賃金に差があり、そのために基本時給も違いがあります。

みんなが当たり前の生活ができるように今すぐ、全国一律1500円以上を望みます。

私たちも人間だとわかってほしい

首都圏青年ユニオン・オリンパスサポートメイト分会 ※お名前・お顔非公開

私はオリンパスサポートメイトという特例子会社で働いています。以前働いていた企業はいわゆるブラック企業だったため4年ほどで心身を壊して退職しました。それから1年かけて就職活動ができるところまで治療と就労支援を受けました。その中で感じたのは誰にでも今後障がい者になる可能性があるということでした。

現在、月の手取りは約14万円で、半分近くが家賃に消えています。体調を崩して傷病手当を利用した際は約8万円まで減り、その中から医療費や診断書の代金を賄わなければならず、もうだめかと思いました。これは東京都の生活保護と比べてもはるかに低い金額です。

今は両親から食品や金銭の援助を受けて何とか生活しています。洋服も汚れたり擦り切れたりするまで着続けて、帰省したときに見るに見かねた両親に買ってもらっている始末です。同級生には実家に仕送りをしている人や記念日のプレゼントを贈る人もいるのに情けないし恥ずかしいです。

今の日本には障がいのあるなしやその他、立場の違いに関係なく経済的に苦しい方がたくさんいます。もうこれ以上生活のどこを切り詰めればいいのかわからない状況なのに「みんな苦しいのだから仕方ない」「仕事があるだけありがたいと思え」などと言われて我慢を強いられています。

しかしその我慢を強いている側は私たちの暮らしを何一つわかっていなし、わかろう、寄り添おうという姿勢が全くありません。私たちは賃上げを求めてこれまで何度も会社側との団体交渉を重ねてきました。その中で何度も自分たちの生活がどれほど追い詰められているか訴えてきました。

オリンパスグループは「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」をすべての活動の基本思想として掲げています。私たちは必要な医療費、食費を削ってやりくりする生活です。友達と遊び行くにも予定より予算を気にしなければなりません。私たちは彼らのいう「世界の人々」に含まれない、人間以下の存在とでもいうのでしょうか。

確かに障がい者雇用は一般就労より一段下に見られているかもしれませんが、だからこそ私たちが賃上げを求めて声を上げることは私たちのためだけでなく、社会全体の賃金水準・生活水準を底上げすることにつながるのではないかと考えています。

私たちは贅沢をしたいわけではなく、ただ、衣食住を普通に自分の賃金で賄えるようになりたい、親にいつまでも心配をかけなくてもいいように経済的に自立したいだけです。そんな、人として当たり前の幸せを高望みだ、贅沢だとみなす会社側に私たちも一人の人間だとわかってほしいです。

厚労省に最賃版「VOICE！」435人分を提出

目安全協への団体・個人署名の第2次分も提出 590団体・7642分に到達

「最低賃金 VOICE！」は、岸田首相にあてた手紙という形式で、低賃金や賃金の地域間格差によって「困っていること」や「我慢していること」など、具体的な経験や思い、また、「最低賃金が1500円になったらできること」といった希望や展望を書きいただきました。記者会見の前に厚労省へ435人分（うちGoogleフォーム54人分）を提出しました。

あわせてランク制度の見直し議論をしている中賃の目安全協への団体・個人署名の追加提出をしました。署名の到達は590団体・7642分となりました。

提出には記者会見した生協労連の霜野さんと首都圏青年ユニオンの組合員も出席し、生活や働く実態から全国一律1500円の実現を訴えました。



3月22日開催された第3回目安全協の議事録・資料が厚労省HPに公開されています。

厚労省HP https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25217.html



第3次最賃デー 5.11 中央行動・第2次署名提出行動

★全国一律請願署名は4月28日までに事務局までお願いします★

大型連休中は物流が滞留する可能性があります。連休明けすぐの提出行動ですので、連休前に到着するようご尽力・ご協力いただきますようお願いいたします。

地方からも
多数ご参加を!

第4次最賃デー 6.24 省庁・政党要請、記者会見など

C・Dランクの地方を中心に大幅引き上げと格差是正を求める省庁要請行動などを取り組みます。厚生労働省や中小企業庁の要請に加え、政党に対する要請も計画します。単産・地方の声を直接届けるためにも、多くのご参加をお願いいたします。前日23日に予定されている国民春闘共闘委員会の第2回単産地方代表者会議は、地方共闘からの参加者1人分の旅費を補助します。